

子供たちの未来のために

貝塚市立第三中学校 3年 久世 夏帆

私の夢は教師になる事です。中学生になり、クラスや学年全体をまとめる学級委員長をしています。そして、毎日先生と打ち合わせや雑談をする中で、私も先生のように、熱心で生徒思いであり、みんなに慕われる先生になりたいと思うようになりました。きっかけを作ってくれた先生にはとても感謝しています。

今回の税の作文は、私が教師になったら未来の子供たちにどんなことを伝えたいかという視点で考えました。

まず、私たちの公立中学校は、一部PTAなどの保護者や地域住民の協力も不可欠ではありますが基本的に全て税金で運営されています。まずは、学校の水道、電気料金は全て税金から支払われています。学校の先生や事務の方の給料も税金から支払われています。そして、私たちが日々使用している校舎、黒板やチョーク、机、iPadなども全てが税金が原資です。また、教科書も税金から私たちに支給されています。これが全生徒分の全9教科、そして副教材も入れると、とんでもない金額になります。当たり前のように教科書を受け取り、教室に置きっぱなしにするなど雑に扱ってしまった時もありました。

しかし、日本では当たり前でも、世界ではそうではない国もあります。以前学習したフェアトレードの話です。アフリカでは貧困の為、子供たちも労働し、その少ない賃金も家族には重要な収入なのです。貧困で教育を受けられず、その為さらに貧困を呼び、それが次の世代でも繰り返すのです。アフリカだけではなく、東南アジアでも貧しい農村では、学校に行けない子供たちがたくさんいます。そんな中、日本政府や企業などがこれらの国に学校を建設しています。学校ができ、現地周辺の親にも教育の大切さを理解してもらい、子供たちを労働から教育へ移行させ、そしてより良い収入が得られるように教養を身に付け社会全体を発展してもらおう、WINWINを目指した取り組みです。しかし、そんなテレビを見た時、教科書はボロボロで、それを何人かで共有していました。

そう考えると、ひとり一つの机や椅子があり、だれも使用していない私だけの新しい教科書が毎年配られます。日本全国どこに住んでいても教育が受けられるようになっているのです。過疎化が進む山奥の村にも小学校があり、日本はすごい国なんだなあと、改めて実感しました。この教育を受ける権利を、次の世代にも続けていくためには、やはり安定した税金が必要だと思います。

税金とは国を運営するのに必要なものです。これから私たちが豊かになるため、そして世界の子供たちのためにも必要なものだと思います。

私もいつか尊敬する先生のような教師になれるように勉学に努め、しっかりと働き納税したいと思います。